

町田市廃棄物最終処分場周辺環境保全協議会

調査結果資料集

【目次】

1. 調査概要.....	1
2. 埋立地内基礎調査.....	4
2-1. 浸出水原水調査結果.....	4
2-2. 埋立ガス性状・地中温度調査結果.....	5
3. 旧埋立地及び本処分場周辺への影響調査.....	7
3-1. 周辺地下水調査結果.....	7
3-2. バイオアッセイ試験結果.....	14
3-3. 周辺井戸・湧水調査結果.....	15
4. 最終覆土工事に伴う周辺への影響調査.....	16
4-1. 土壌分析調査結果.....	16
4-2. 騒音・振動調査結果.....	16
4-3. 降下ばいじん調査結果.....	17
4-4. 下流水質調査結果.....	17
4-5. 最終覆土材料試験結果.....	18
4-6. 雨水調整池調査結果.....	20

平成23年3月29日（火） 15:00~17:00

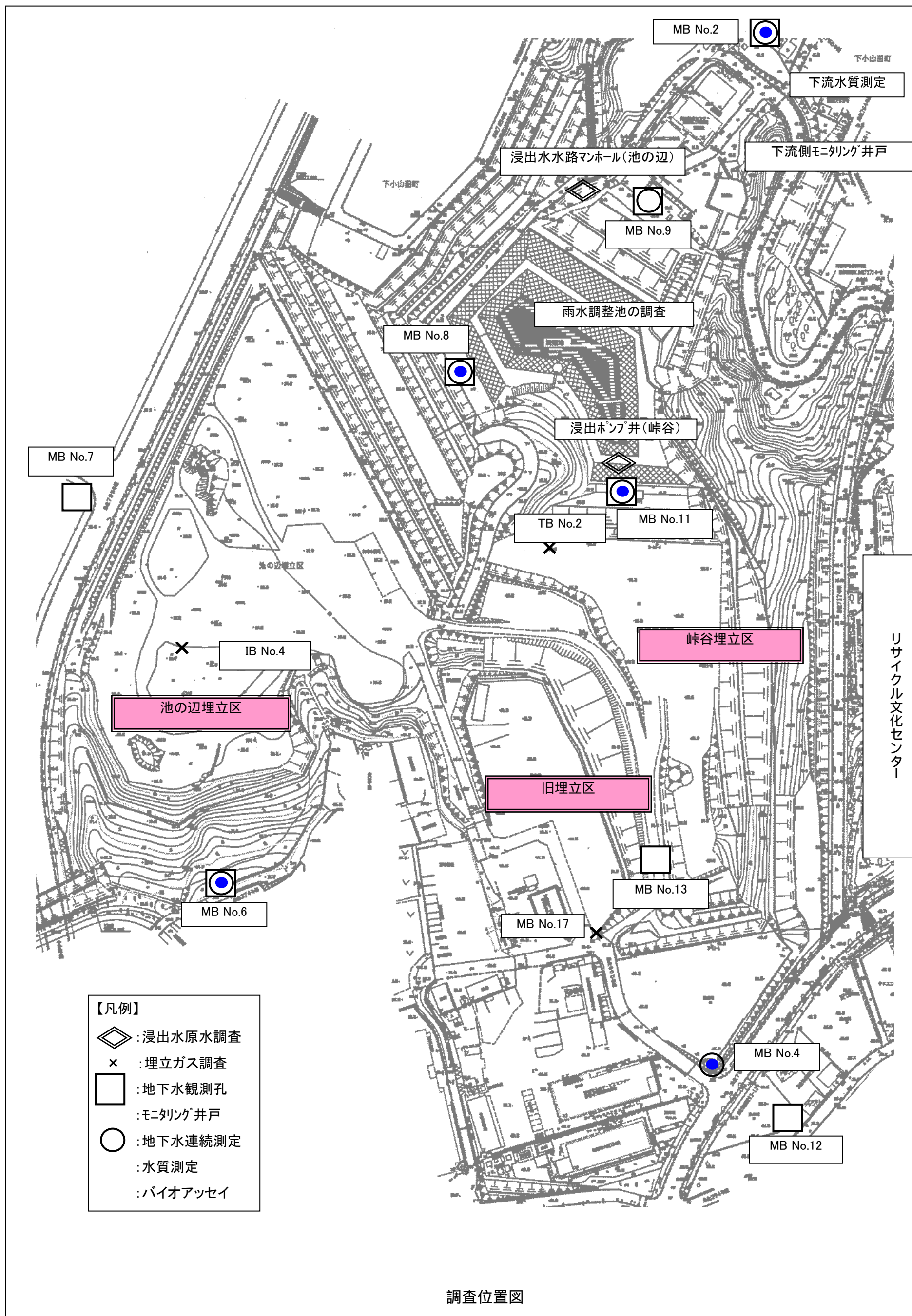
1. 調査概要

①調査項目

目的	対象	調査位置	分析項目	調査頻度
埋立廃棄物の安定性	浸出水原水	2箇所 池の辺：浸出水水路マンホール (MBNo9 付近) 峠谷：浸出ポンプ井 (MBNo11 付近)	・水質分析：①pH, ②塩化物イオン, ③電気伝導率, ④水温	・4回/年
			・水質分析：⑤COD, ⑥SS, ⑦T-N, ⑧T-P, ⑨外観, ⑩ナトリウムイオン, ⑪カリウムイオン, ⑫硫酸イオン	・1回/年
	埋立ガス性状調査	3箇所 池の辺：IBNo.4 峠谷：TBNo.2 旧埋立地：MBNo.17	・ガス発生量：湿り排出ガス量	・4回/年
			・ガス濃度：①排出ガス温度, ②メタン, ③二酸化炭素, ④TVOC ・ガス濃度：⑤ベンゼン, ⑥ジクロロメタン	・4回/年 ・1回/年
地中温度	3箇所 池の辺：IBNo.4 峠谷：TBNo.2 旧埋立地：MBNo.17	・温度	・1回/年	
旧埋立地及び本処分場周辺への影響	周辺地下水	9箇所 (MBNo.2, MBNo.6, MBNo.7, MBNo.8, MBNo.9, MBNo.11, MBNo.12, MBNo.13, 下流側モ ニタリング井戸)	・水質分析：①pH, ②塩化物イオン, ③電気伝導率, ④水温	・4回/年
			・水質分析：⑤COD, ⑥SS, ⑦T-N, ⑧T-P, ⑨外観, ⑩ナトリウムイオン, ⑪カリウムイオン, ⑫硫酸イオン, ⑬鉛, ⑭砒素, ⑮バイオアッセイ ※⑮バイオアッセイについては、MBNo.2,4,6,7,8の5箇所とする。	・1回/年
	新規掘削孔	2箇所 (H22.-No1, 小山田桜台池)	・水質分析：①pH, ②塩素イオン, ③電気伝導率, ④水温	・2回/年 (H22.-No1)
			・水質分析：①pH, ②塩素イオン, ③電気伝導率, ④水温, ⑤BOD, ⑥COD, ⑦SS, ⑧全シアン⑨六価クロム, ⑩総水銀, ⑪カドミウム, ⑫鉛, ⑬砒素, ⑭アルキル水銀, ⑮ダイオキシン類	・1回/年 (H22.-No1)
	周辺地下水連続測定	6箇所 (MB No.2, MB No.4, MB No.6, MB No.8, MB No.9, MB No.11)	・測定項目：①水位, ②pH, ③電気伝導率, ④水温	・1回/月 (7-9回収)
周辺民家井戸・湧水	10箇所(周辺民家等の井戸)	・測定項目：①pH, ②電気伝導率, ③塩化物イオン	・1回/年	
雨水調整池の流出入調査	雨水調整池	4箇所 (雨水調整池の流出入口)	・水量：①連続測定	・2回/年
			・水質分析：①pH, ②塩素イオン, ③電気伝導率, ④水温	・2回/年
			・底質分析：①ダイオキシン類, ②鉛	・2回/年
最終覆土工事に伴う周辺への影響	土壌分析調査		・方法：土砂受入の分析項目・方法 ・溶出量試験：四塩化炭素, 1,2-ジクロロエタン, 1,1-ジクロロエチレン, シス-1,2ジクロロエチレン, 1,3-ジクロロプロペン, ジクロロメタン, テトラクロロエチレン, 1,1,1-トリクロロエタン, 1,1,2-トリクロロエタン, トリクロロエチレン, ベンゼン, カドミウム及びその化合物, 六価クロム化合物, シアン化合物, 水銀及びその化合物, アルキル水銀, セレン及びその化合物, 鉛及びその化合物, 砒素及びその化合物, ふっ素及びその化合物, ほう素及びその化合物, シマジン, チオベンカルブ, チウラム, ポリ塩化ビフェニル, 有機りん化合物, 油分 ・含有量試験：カドミウム及びその化合物, 六価クロム化合物, シアン化合物, 水銀及びその化合物, セレン及びその化合物, 鉛及びその化合物, 砒素及びその化合物, ふっ素及びその化合物, ほう素及びその化合物, 銅, ダイオキシン類	・5試料
	騒音・振動調査	1地点(適切な位置を選定)	・方法：騒音に係る環境基準及び振動規制法施行規則に定める方法	・3回/年
	降下ばいじん調査	3地点	・方法：衛生試験法・注解に定められた方法(ダストジャー法あるいはデポジットゲージ法)	・3回/年
	下流水質調査	1地点	・方法：作業員による機器測定(EC計, 濁度計, pH計, 水温計)	・3回/年

※略語：COD：化学的酸素要求量、SS：浮遊物質量、T-N：全窒素、T-P：全りん、TVOC：総揮発性有機化合物量

②埋立廃棄物の安定性、旧埋立地及び本処分場周辺への影響調査位置図



調査位置図

③ 工事に伴う周辺への影響調査



調査目的	考えられる主な要因	調査箇所	地点数	
騒音・振動調査	工事に伴う騒音・振動のモニタリング	場内重機	覆土工事現場付近の敷地境界 (最も騒音が大きいと思われる地点)	1箇所
降下ばいじん調査	工事に伴う降下ばいじん量のモニタリング	覆土工事	覆土工事現場付近の敷地境界	3箇所
下流水質調査	工事に伴う放流水質の変化のモニタリング	工事全体	放流水路下流	1箇所

④ 調査写真



浸出水原水



降下ばいじん調査



埋立ガス



地下水



土壌分析



騒音・振動調査

2. 埋立地内基礎調査

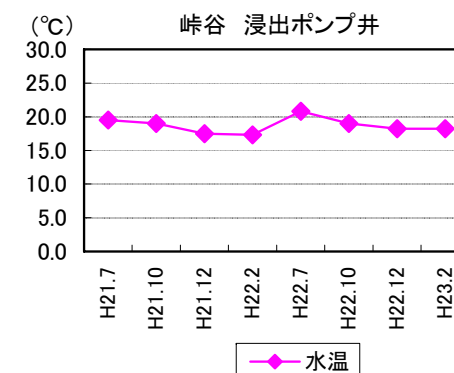
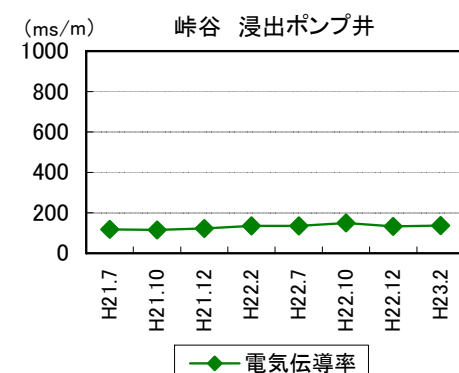
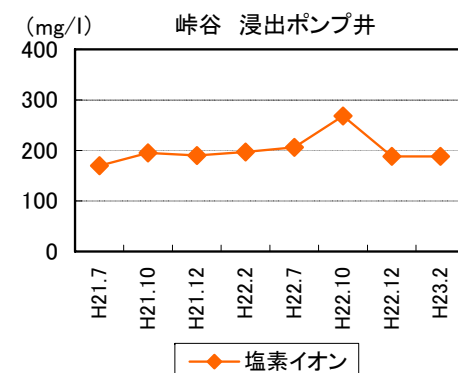
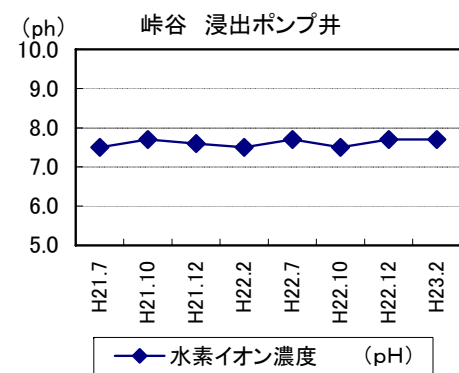
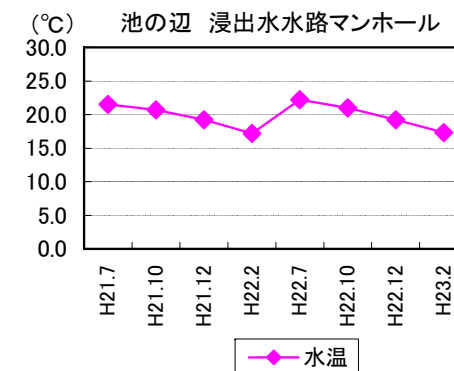
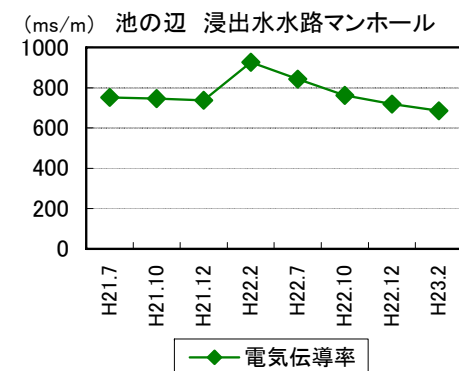
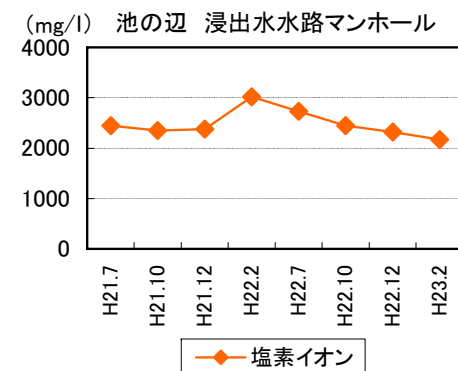
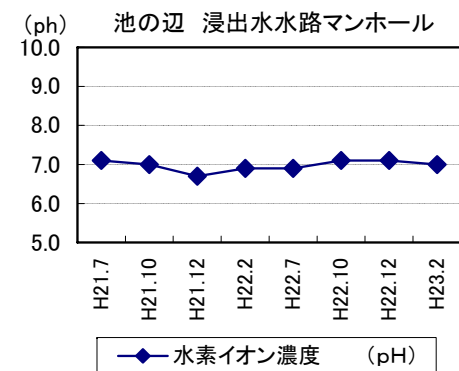
2-1. 浸出水原水調査結果

- ① 池の辺については、塩素イオン、電気伝導率ともに今年度は減少傾向にある。
 ② 峠谷の塩素イオンは10月の測定結果はやや上昇したが、12月測定結果はこれまでと同じ傾向を示した。

項目	検体名称 単位 採取年月日	池の辺 浸出水水路マンホール								峠谷 浸出ポンプ井							〔参考〕 放流基準	
		H23.2.24	H22.12.15	H22.10.15	H22.7.23	H22.2.22	H21.12.15	H21.10.22	H21.7.29	H23.2.24	H22.12.15	H22.10.14	H22.7.23	H22.2.17	H21.12.15	H21.10.22		H21.7.29
水素イオン濃度 (pH)	pH	7.0	7.1	7.1	6.9	6.9	6.7	7.0	7.1	7.7	7.7	7.5	7.7	7.5	7.6	7.7	7.5	5.8以上8.6以下
塩素イオン	mg/L	2170	2320	2450	2730	3020	2380	2350	2450	188	188	268	206	197	190	195	170	-
電気伝導率	mS/m	685	718	762	843	927	737	746	752	136	132	150	135	135	123	115	118	-
水温		17.3	19.2	21.0	22.2	17.2	19.2	20.7	21.5	18.2	18.2	19.0	20.8	17.3	17.5	19.0	19.5	-
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	-	4.2	-	-	5.2	-	-	-	-	11	-	-	16	-	-	-	90以下
浮遊物質量 (SS)	mg/L	-	5	-	-	4	-	-	-	-	7	-	-	11	-	-	-	60以下
全窒素 (T-N)	mg/L	-	11.0	-	-	16.3	-	-	-	-	24.7	-	-	27.6	-	-	-	120以下、60以下(日間平均)
全りん (T-P)	mg/L	-	<0.05	-	-	0.13	-	-	-	-	0.1	-	-	0.29	-	-	-	16以下、8以下(日間平均)
外観(色)		-	淡灰色	-	-	淡灰黄色	-	-	-	-	中灰黄色	-	-	中灰黄色	-	-	-	-
ナトリウム	mg/L	-	628	-	-	802	-	-	-	-	113	-	-	108	-	-	-	-
カリウム	mg/L	-	344.0	-	-	486.0	-	-	-	-	49.2	-	-	50.4	-	-	-	-
硫酸イオン	mg/L	-	56.0	-	-	37.0	19.2	20.7	21.5	-	17.0	-	-	8.0	17.5	19.0	19.5	-

注1：放流基準値は、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(昭和51年3月14日総理府・厚生省令第1号)に示される基準値である。
 (基準が適用されるのは水処理施設で処理した後の放流水であるため、浸出水原水には適用外)

■ : 最新のデータ



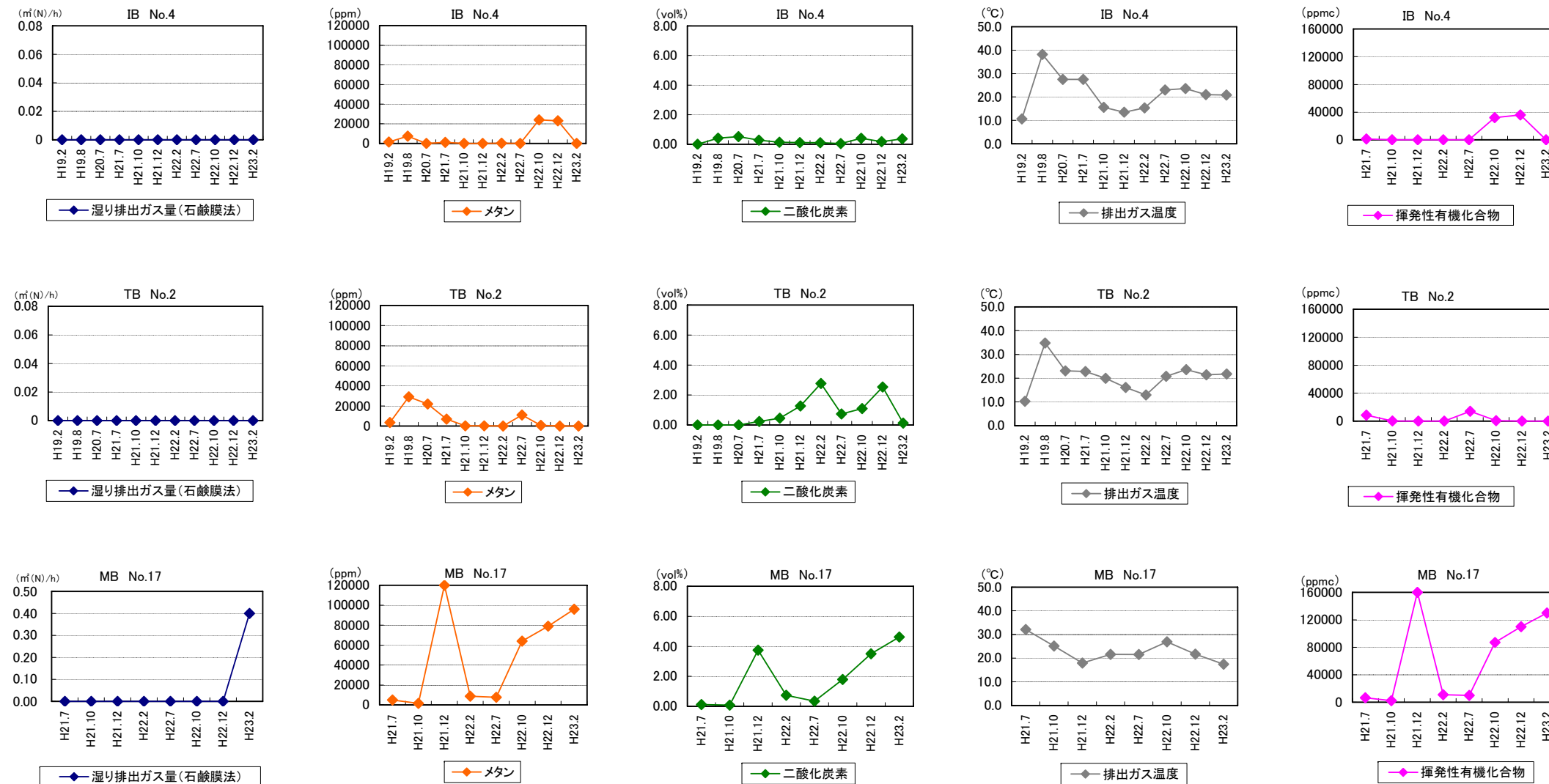
2-2. 埋立ガス性状結果・地中温度調査結果

①埋立ガス性状結果

- ① IB NO.4、TB NO.2 の、ガス量は定量下限値以下と低い。MB NO.17 は、若干のガスが測定された。
 ② IB NO.4 については、メタン、揮発性有機化合物が H22.10、H22.12 でやや高い傾向にあったが、H23.2 はこれまでと同じ傾向となった。
 ③ TB NO.2 については、これまでとほぼ変わらない傾向を示した。
 ④ MB NO.17 については、メタン、二酸化炭素、揮発性有機化合物が H22.10、H22.12、H23.2 で高い傾向にあり、変動幅が大きい。

項目	検体名称 採取年月日 時刻	単位	定量 下限値	IB 4												TB 2												MBNo17												環境基準値 及び指針値
				H22年度	H22年度	H22年度	H22年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H20年度	H20年度	H19年度	H18年度	H22年度	H22年度	H22年度	H22年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度	H20年度	H20年度	H19年度	H18年度	H22年度	H22年度	H22年度	H22年度	H21年度	H21年度	H21年度	H21年度					
				H23.2.25	H22.12.15	H22.10.15	H22.7.26	H22.2.23	H21.12.17	H21.10.27	H21.7.30	H20.7.10	H19.8.14	H19.2.20	-	H23.2.25	H22.12.15	H22.10.15	H22.7.26	H22.2.23	H21.12.17	H21.10.27	H21.7.30	H20.7.10	H19.8.14	H19.2.20	-	H23.2.25	H22.12.15	H22.10.15	H22.7.26	H22.2.23	H21.12.17	H21.10.27	H21.7.30					
湿り排出ガス量(石鹼膜法) ^{注5}		m ³ (N)/h	0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	-							
メタン		ppm	-	29	23000	24000	1.7	130	2.7	2.8	990	10	7500	1300	2.2	29	720	11000	9.5	90	240	7000	22000	29000	3500	96000	79000	64000	7600	8700	120000	1600	5000	-						
二酸化炭素		vol %	0.05	0.37	0.17	0.40	0.05	0.1	0.12	0.14	0.27	0.52	0.41	ND	0.12	2.53	1.10	0.74	2.77	1.27	0.45	0.24	ND	ND	ND	4.62	3.5	1.79	0.34	0.73	3.75	0.08	0.11	-						
排出ガス温度			-	20.8	21.0	23.6	23.0	15.3	13.5	15.6	27.5	27.5	38.2	10.6	21.8	21.4	23.6	20.8	12.9	16.1	19.9	22.8	23.1	34.8	10.3	17.4	21.7	26.9	21.5	21.6	17.9	25.1	32.1	-						
ベンゼン		μg/m ³	1	-	13	-	-	2.0	-	-	-	-	1	14	ND	-	<1	-	<1	-	-	-	-	140	91	86	-	110	-	-	3	-	-	3						
ジクロロメタン		μg/m ³	1	-	21.0	-	-	1.0	-	-	-	-	3	5	ND	-	12	-	<1	-	-	-	4	4	2	-	12	-	-	1	-	-	150							
揮発性有機化合物		ppmC	-	43	36000	32000	19	11	5	6	1300	-	-	-	7	40	830	14000	11	100	330	8600	-	-	-	130000	110000	87000	10000	11000	160000	2200	6500	-						

注1 ; 「< 数値」は、定量下限値以下であったことを示す。



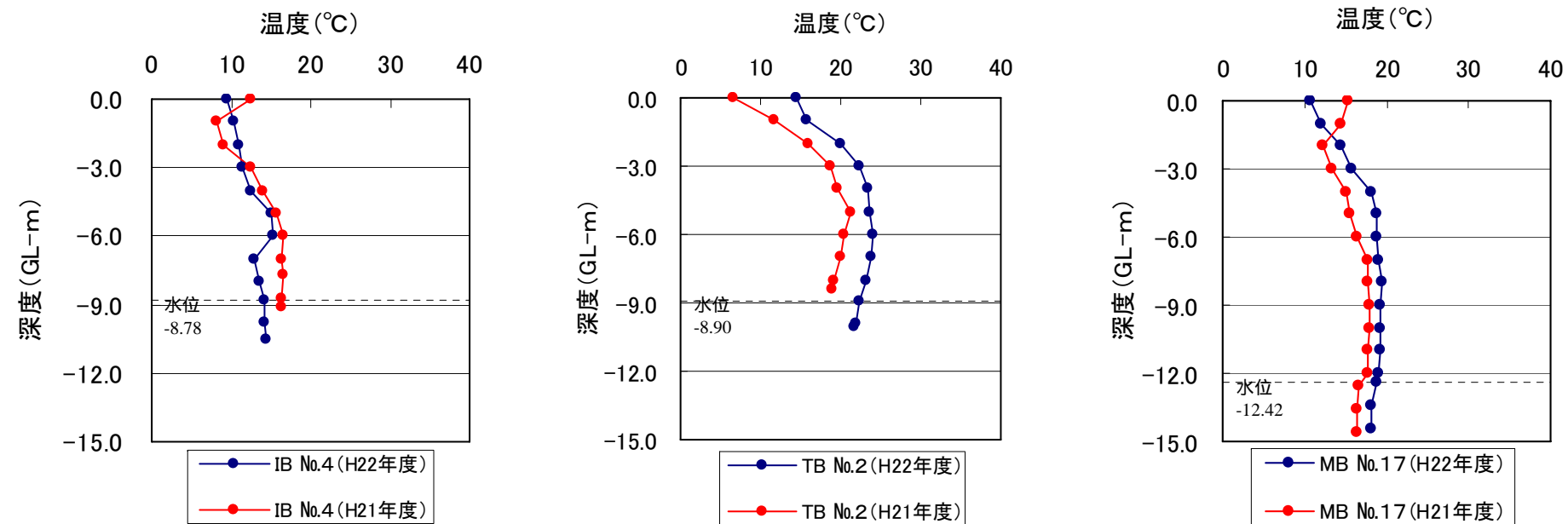
定量下限値以下の場合、
 定量下限値をグラフ上に表記
 している

②地中温度調査結果

- ① TB No.2 が昨年よりやや高い傾向を示したが、概ね問題のない程度と考えられる。
 ② その他の地点においては、昨年と同様であった。

地点	IB 4				TB 2				MB 17				
調査日	平成22年12月22日		平成22年2月23日		平成22年12月15日		平成22年2月23日		平成22年12月15日		平成22年2月23日		
時間	10:10 ~ 10:20		10:15 ~ 10:25		10:35 ~ 10:50		11:25 ~ 11:35		10:05 ~ 10:20		13:30 ~ 13:40		
項目	深度	温度()	深度	温度()	深度	温度()	深度	温度()	深度	温度()	深度	温度()	
結果									GL ± 0.0m	10.8	GL ± 0.0m	15.4	
									GL-1.0m	12.1	GL-1.0m	14.5	
									GL-2.0m	14.5	GL-2.0m	12.2	
									GL-3.0m	15.8	GL-3.0m	13.3	
		GL ± 0.0m	9.5			GL ± 0.0m	14.4			GL-4.0m	18.2	GL-4.0m	15.0
		GL-1.0m	10.3	GL ± 0.0m	12.5	GL-1.0m	15.8	GL ± 0.0m	6.7	GL-5.0m	18.9	GL-5.0m	15.6
		GL-2.0m	11.0	GL-1.0m	8.1	GL-2.0m	20.0	GL-1.0m	11.6	GL-6.0m	18.7	GL-6.0m	16.5
		GL-3.0m	11.5	GL-2.0m	9.1	GL-3.0m	22.4	GL-2.0m	16.0	GL-7.0m	19.1	GL-7.0m	17.6
		GL-4.0m	12.5	GL-3.0m	12.5	GL-4.0m	23.5	GL-3.0m	18.8	GL-8.0m	19.4	GL-8.0m	17.6
		GL-5.0m	15.1	GL-4.0m	13.9	GL-5.0m	23.7	GL-4.0m	19.5	GL-9.0m	19.3	GL-9.0m	17.9
		GL-6.0m	15.2	GL-5.0m	15.6	GL-6.0m	24.0	GL-5.0m	21.2	GL-10.0m	19.2	GL-10.0m	17.9
		GL-7.0m	13.0	GL-6.0m	16.5	GL-7.0m	23.8	GL-6.0m	20.5	GL-11.0m	19.2	GL-11.0m	17.8
		GL-8.0m	13.6	GL-7.0m	16.4	GL-8.0m	23.2	GL-7.0m	19.9	GL-12.0m	19.0	GL-12.0m	17.7
		GL-8.78m	14.3	GL-7.70m	16.6	GL-8.90m	22.3	GL-8.00m	19.2	GL-12.42m	18.9	GL-12.57m	16.7
	GL-9.78m	14.3	GL-8.70m	16.3	GL-9.90m	21.9	GL-8.42m	19.0	GL-13.42m	18.1	GL-13.57m	16.5	
	GL-10.55m	14.5	GL-9.10m	16.3	GL-10.02m	21.8			GL-14.42m	18.1	GL-14.57m	16.5	
水位	GL-8.78m		GL-7.70m		GL-8.90m		GL-8.00m		GL-12.42m		GL-12.57m		
井戸全長	10.55m		9.10m		10.02m		8.42m		19.0m		19.0m		

注) 破線は水位を示す。



項目	検体名称 採取年月日 時刻 単位	MB 12										MB 13										H22- 1		小山田 桜台池	下流側 モニタリング 井戸										維持管理基準	基準値等
		H23.2.24	H22.12.16	H22.10.14	H22.7.27	H22.2.17	H21.12.16	H21.10.27	H21.7.30	H20.7.11	H19.10.19	H23.2.24	H22.12.16	H22.10.14	H22.7.27	H22.2.17	H21.12.16	H21.10.27	H21.7.30	H20.7.14	H19.10.23	H22.12.16	H22.9.29	H22.12.16	H23.2.24	H22.12.16	H22.10.15	H22.7.27	H22.2.17	H21.12.10	H21.10.27	H21.7.30				
		10:50	10:05	14:20	11:20	11:10	9:20	11:00	15:25	9:30	14:10	13:40	12:00	16:00	15:00	17:00	11:10	11:15	14:30	15:00	9:30	9:10	10:30	9:50	16:10	14:10	14:10	16:20	16:30	11:55	9:45	14:55				
水素イオン濃度 (pH)	pH	6.6	6.8	6.6	6.8	6.5	6.8	6.8	6.9	6.6	6.7	6.9	7.3	6.9	7.1	6.9	7.1	6.9	7.0	6.9	6.9	6.4	6.5	7.3	7.1	7.2	7.1	7.2	7.1	7.2	7.0	7.4	-	-		
生物学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.5	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5	1.4	-	<0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
化学的酸素要求量 (COD)	mg/L	-	<0.5	-	-	0.9	-	-	-	0.7	0.9	-	10	-	-	30	-	-	-	27	11	-	0.9	-	-	<0.5	-	-	<0.5	-	-	-	-	-		
浮遊物質量 (SS)	mg/L	-	3	-	-	11	-	-	-	10	4	-	12	-	-	7	-	-	-	15	4	-	3	-	-	<1	-	-	<1	-	-	-	-	-		
塩素イオン	mg/L	4.1	3.9	2.8	4.6	7.6	4.8	3.9	5.4	4.7	8.2	132.0	90.2	220	169	215	186.0	172	154	223	77.6	7.8	7.6	17.2	5.4	5.7	5.7	5.5	6.0	5.8	4.8	5.6	-	-		
電気伝導率	mS/m	16.9	16.4	14.5	18.0	17.3	16.4	15.6	14.1	12.6	23.0	95.2	67.1	141	116	142	128.0	128	105	124	54.1	37.8	40.1	16.2	18.1	17.9	17.6	17.8	17.2	18.5	17.8	17.0	-	-		
水温		17.0	14.6	18.2	18.7	16.8	15.1	17.8	20.0	-	-	18.6	17.6	19.8	20.2	18.5	18.2	20.2	21.0	-	-	15.0	16.2	9.0	15.8	15.6	17.4	18.0	12.9	15.5	16.5	20.6	-	-		
全シアン	mg/L	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.1	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.1	ND	-	<0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検出されないこと	検出されないこと		
六価クロム	mg/L	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.005	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.005	ND	-	<0.005	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05以下	0.05以下		
総水銀	mg/L	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.0005	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.0005	ND	-	<0.0005	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0005以下	0.0005以下		
カドミウム	mg/L	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.001	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.001	ND	-	<0.001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01以下	0.01以下		
鉛	mg/L	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	0.003	ND	-	0.008	-	-	<0.001	-	-	-	0.001	0.004	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	0.01以下	0.01以下		
鉛(ろ過後)	mg/L	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	<0.001	ND	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	<0.001	0.001	-	-	-	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	-	0.01以下		
砒素	mg/L	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	<0.001	ND	-	<0.001	-	-	<0.001	-	-	-	<0.001	0.001	-	<0.001	-	-	0.002	-	-	0.002	-	-	-	0.01以下	0.01以下		
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.0005	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.0005	ND	-	<0.0005	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検出されないこと	検出されないこと		
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	-	-	-	-	-	-	-	-	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.15	-	-	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1以下		
全窒素	mg/L	-	0.95	-	-	1.34	-	-	-	-	-	-	20.10	-	-	50.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.27	-	-	0.23	-	-	-	-	-		
全りん	mg/L	-	<0.05	-	-	1.49	-	-	-	-	-	-	<0.05	-	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<0.05	-	-	<0.05	-	-	-	-	-		
外観(色)		-	淡灰茶色	-	-	中茶色	-	-	-	-	-	-	淡灰茶色	-	-	中茶色	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無色	-	-	無色	-	-	-	-	-		
ナトリウム(Na)	mg/L	-	5.8	-	-	6.6	-	-	-	-	-	-	68.6	-	-	166	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.1	-	-	9.6	-	-	-	-	-		
カリウム(K)	mg/L	-	<0.5	-	-	<0.5	-	-	-	-	-	-	6.2	-	-	13.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5	-	-	1.6	-	-	-	-	-		
硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	mg/L	-	14	-	-	15	-	-	-	-	-	-	<1	15	-	-	<1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	4	-	-	-	-	-		

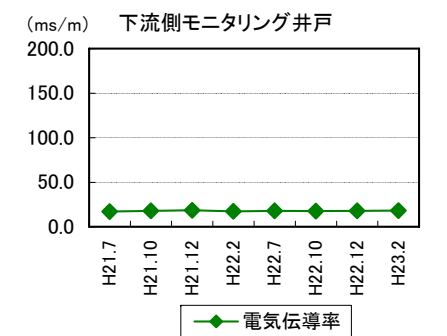
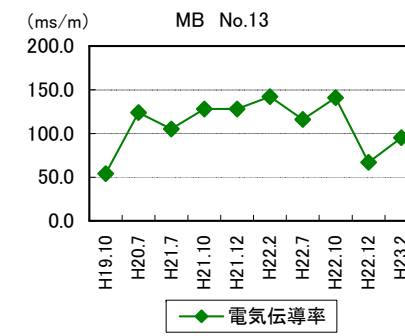
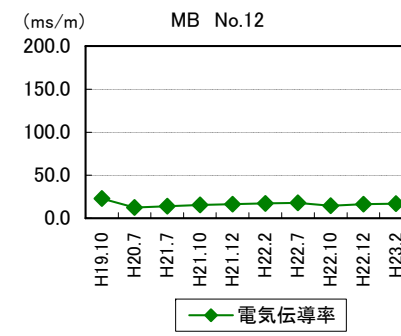
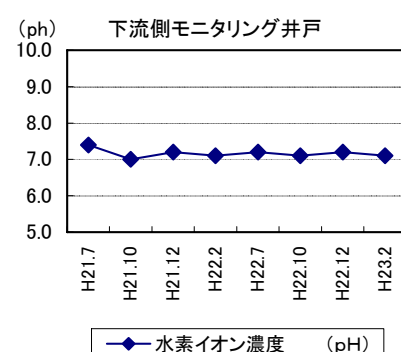
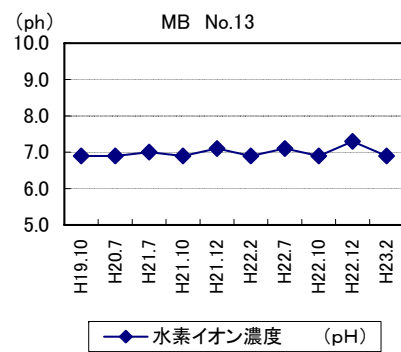
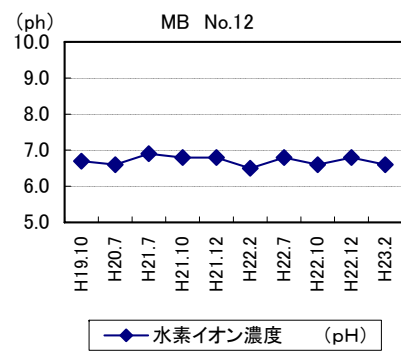
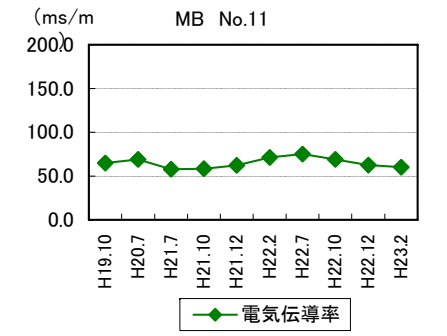
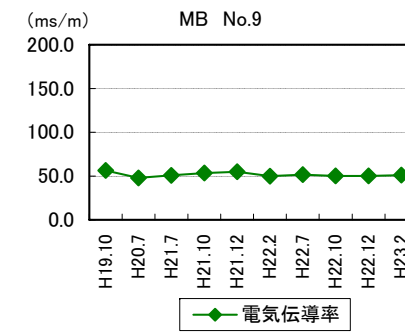
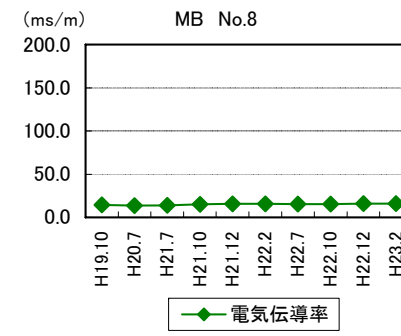
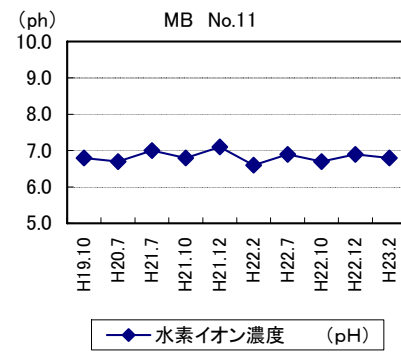
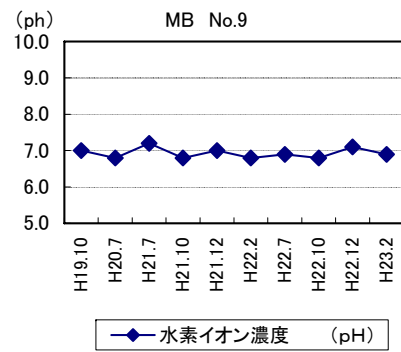
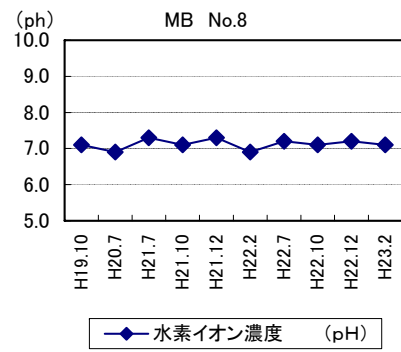
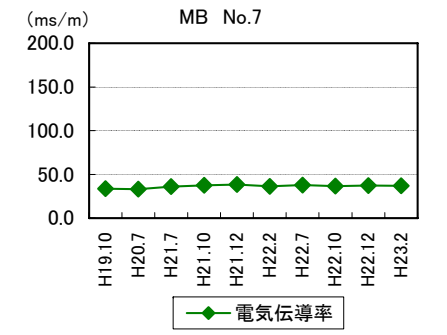
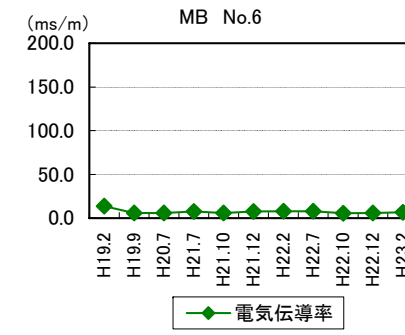
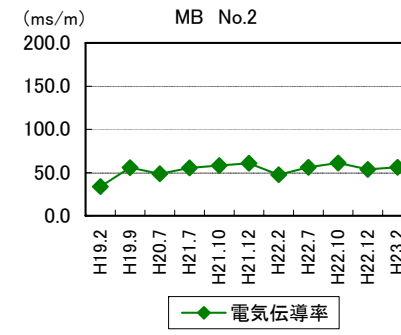
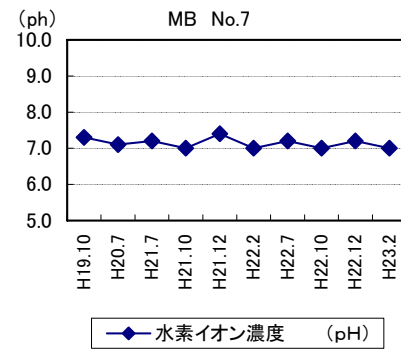
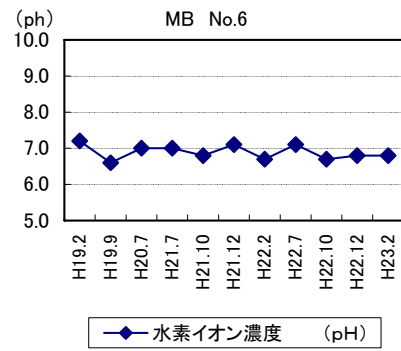
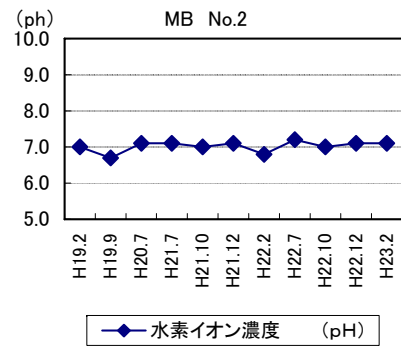
注) 1: 維持管理基準は、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令(昭和51年3月12日総理府・厚生省令第1号)」に示される基準値である。

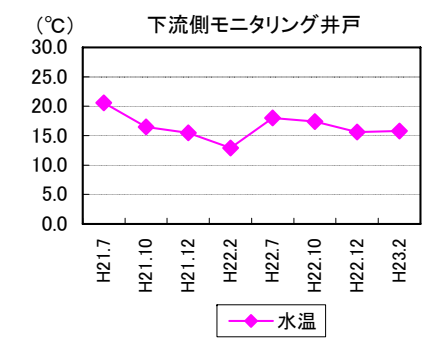
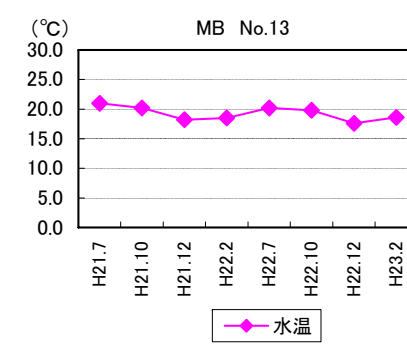
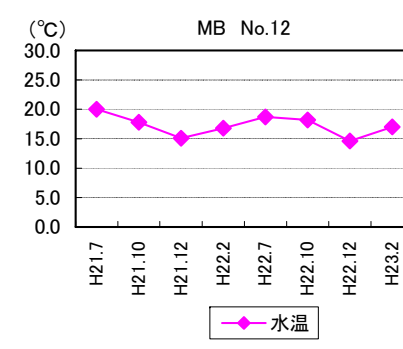
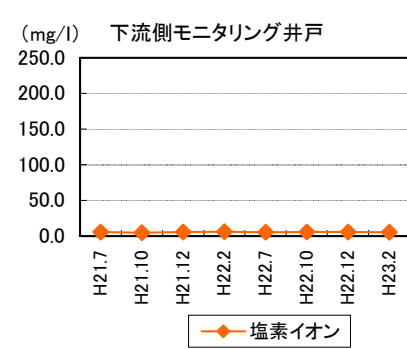
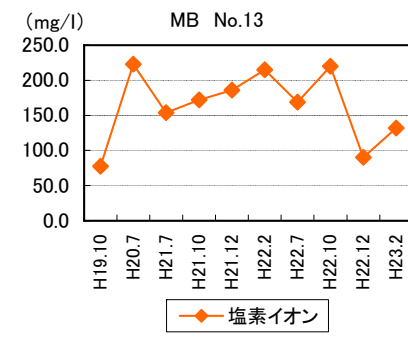
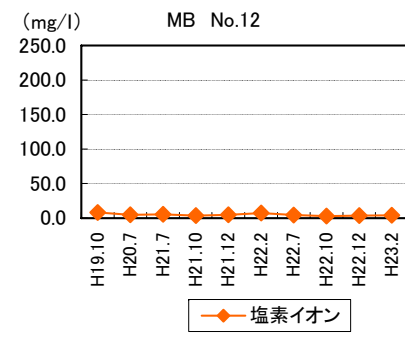
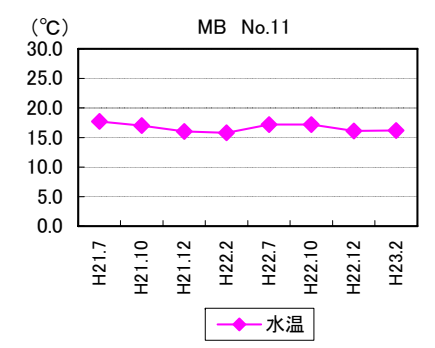
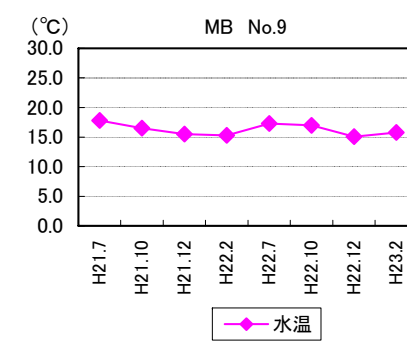
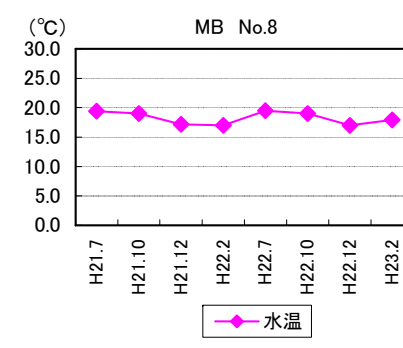
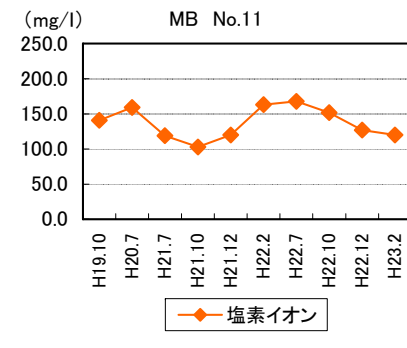
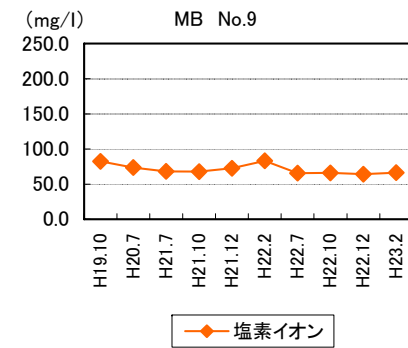
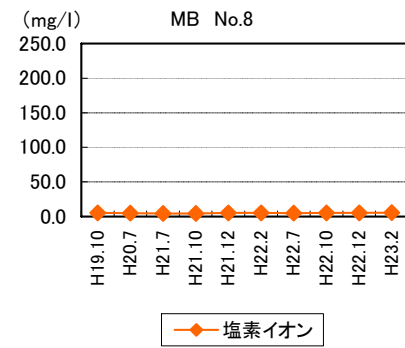
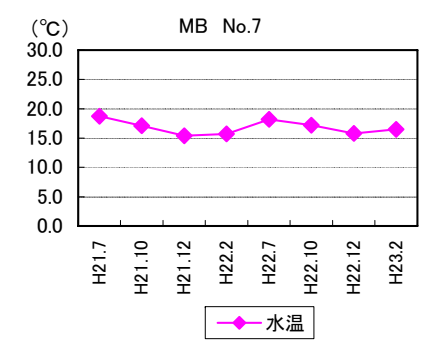
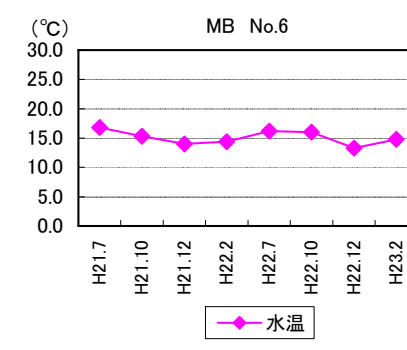
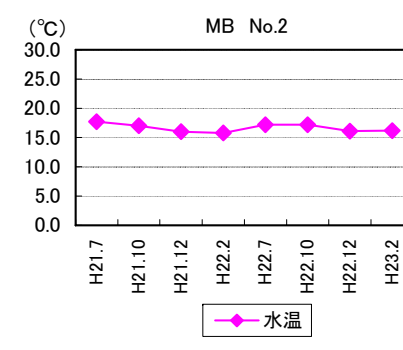
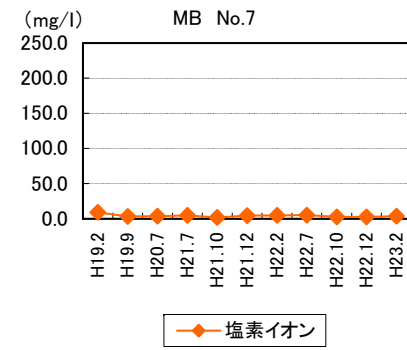
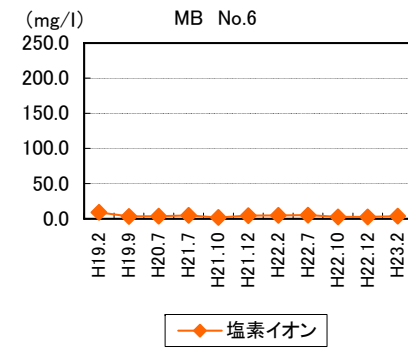
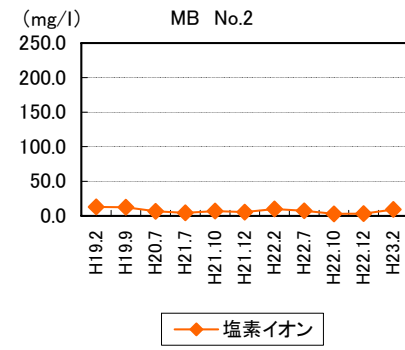
注) 2: 基準値等のうち、鉛(ろ過後)以外の項目については、「地下水の水質汚濁に係る環境基準について(平成9年3月13日環境庁告示第10号)」に示される環境基準による。ただし、鉛(ろ過後)については「土壌汚染対策法施行規則(平成14年12月26日環境省令第29号)」に示される地下水基準による。ダイオキシン類については「ダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準(平成11年12月27日環境庁告示第68号)」による。

注) 3: 「検出されないこと」とは指定の分析方法において、その結果が当該分析方法の定量下限値を下回ることをいう。

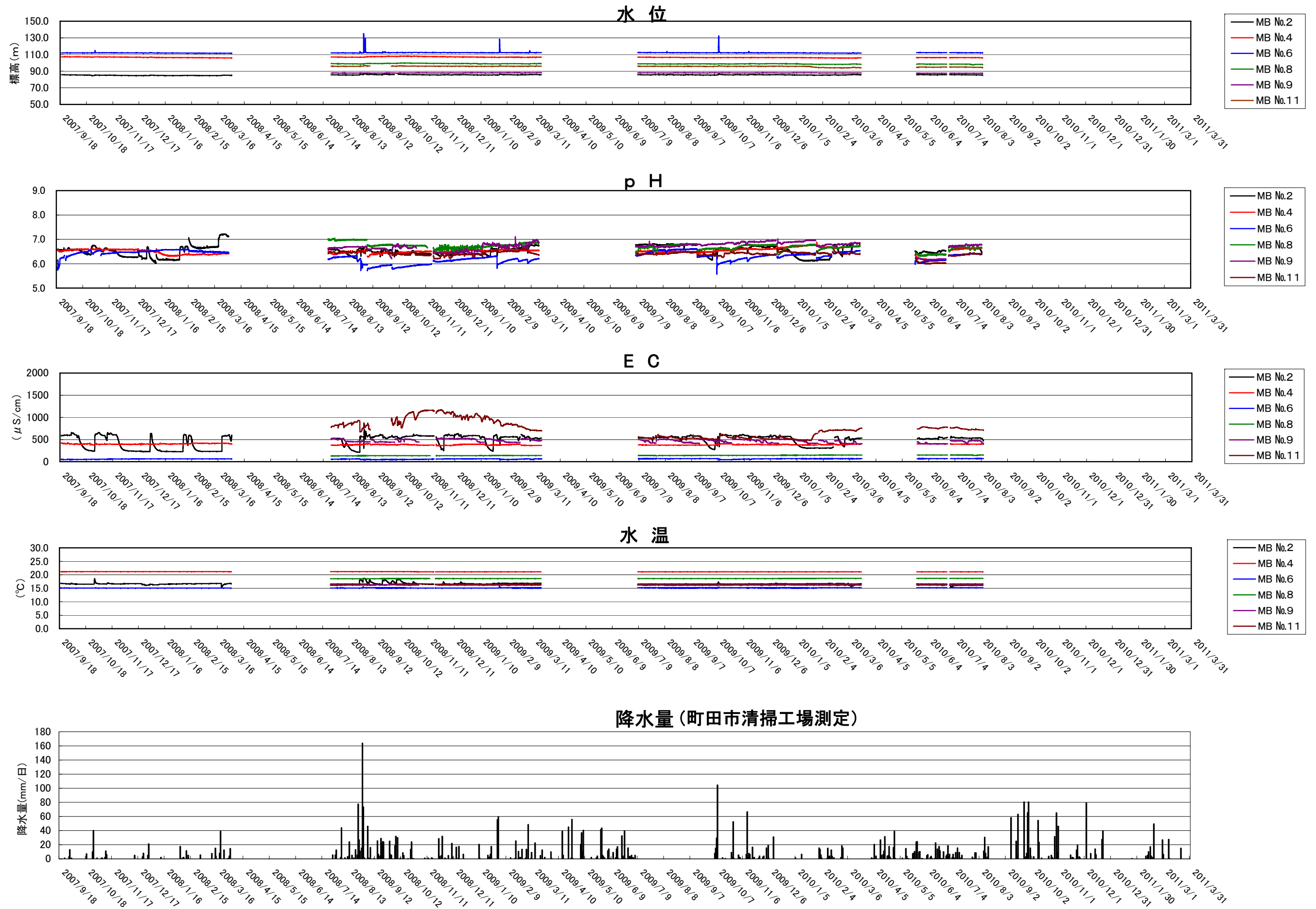
注) 4: ダイオキシン類のTEQ換算について
 毒性等価係数は、WHO(1998)のTEFを用いた。
 検出下限値以上の値はそのままの値を用い、検出下限値未満の値は検出下限値の1/2の値を用いて各異性体の毒性等量を算出した。

注) 5: 赤字は「維持管理基準」、「基準値等」の超過を示す。

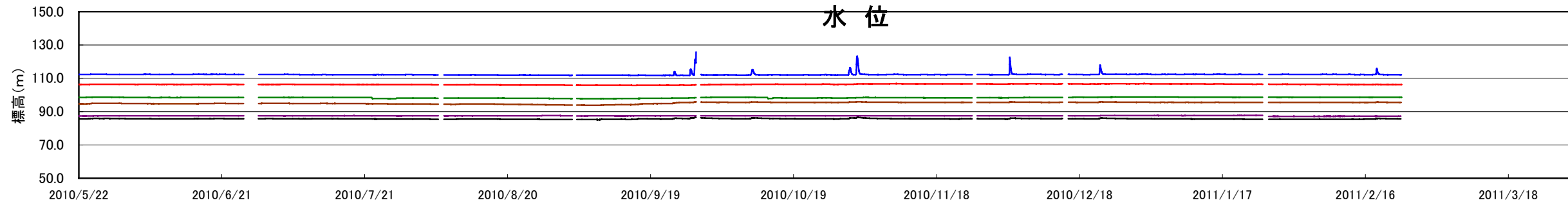




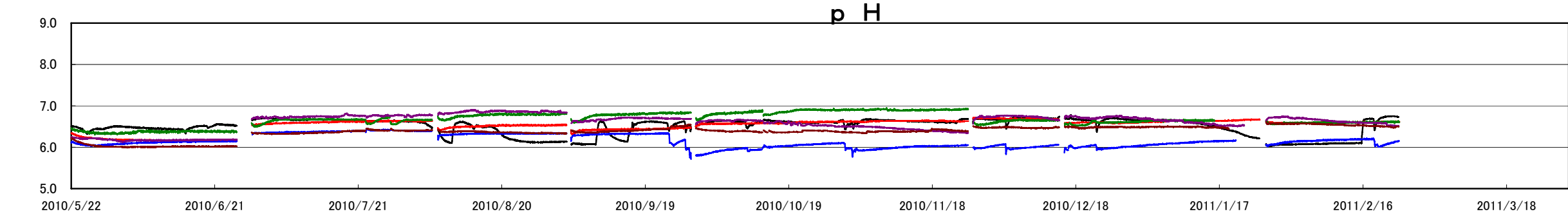
■地下水連続測定データ(2007/9/18~3/31、2008/7/23~2009/3/19、2009/7/8~2010/3/19、2010/5/22~)



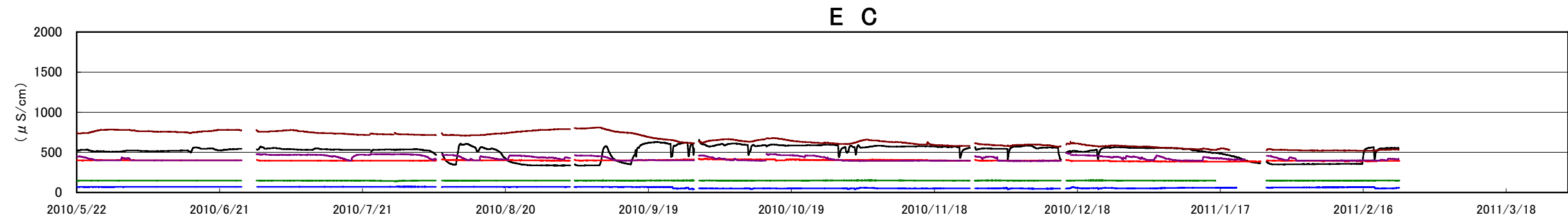
■地下水連続測定データ(2010/5/22~2011/3/31)



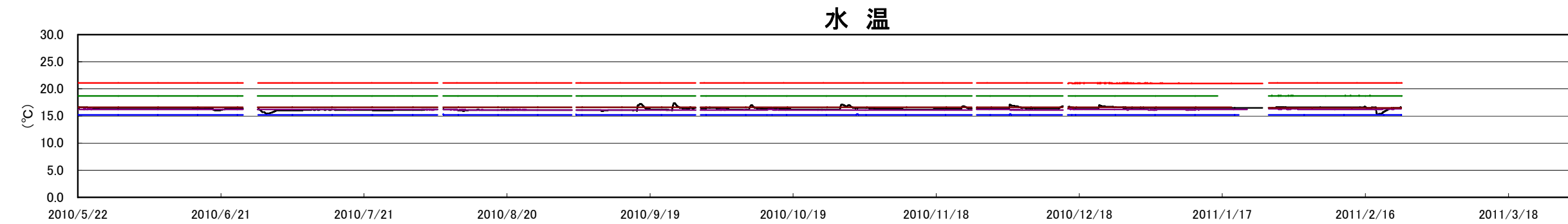
- MB No.2
- MB No.4
- MB No.6
- MB No.8
- MB No.9
- MB No.11



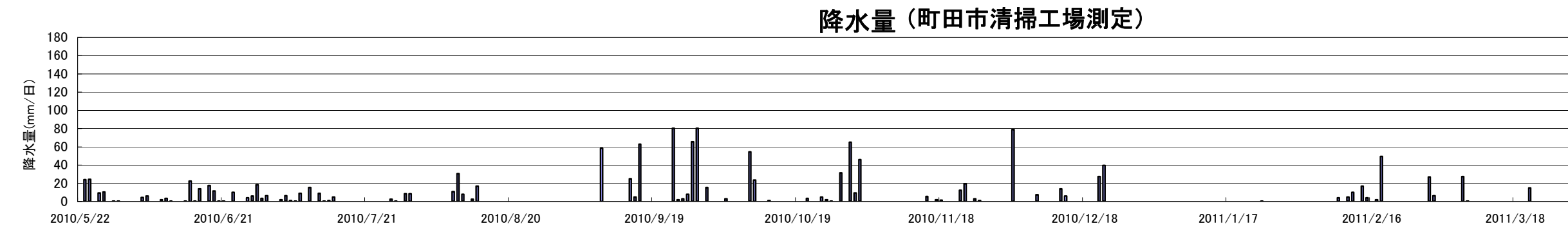
- MB No.2
- MB No.4
- MB No.6
- MB No.8
- MB No.9
- MB No.11



- MB No.2
- MB No.4
- MB No.6
- MB No.8
- MB No.9
- MB No.11

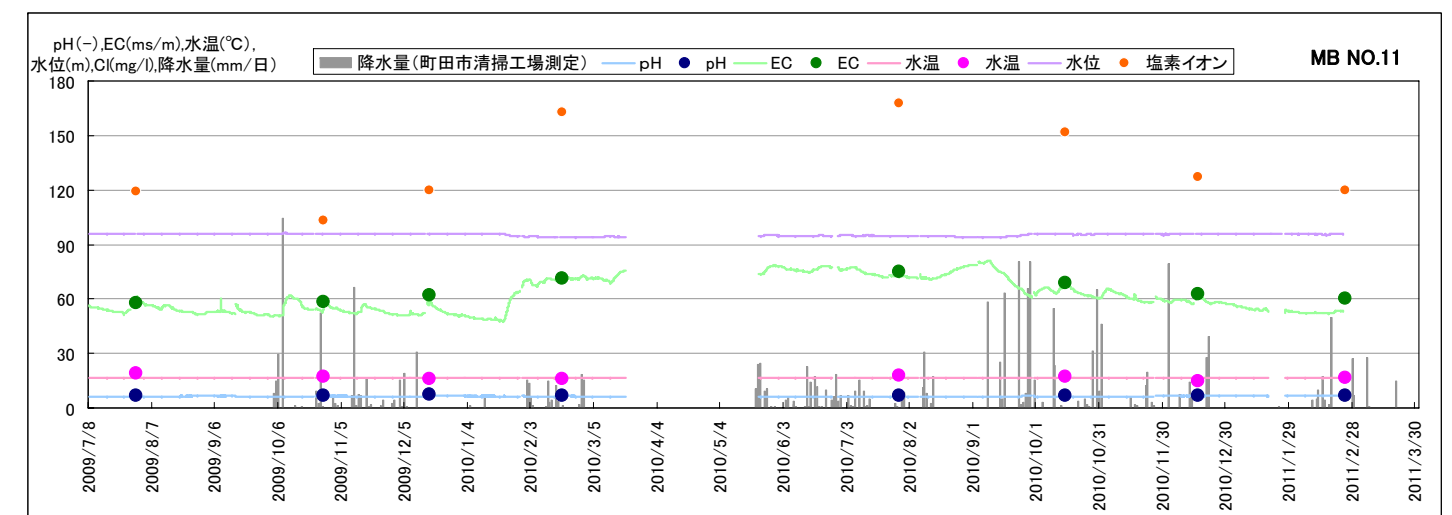
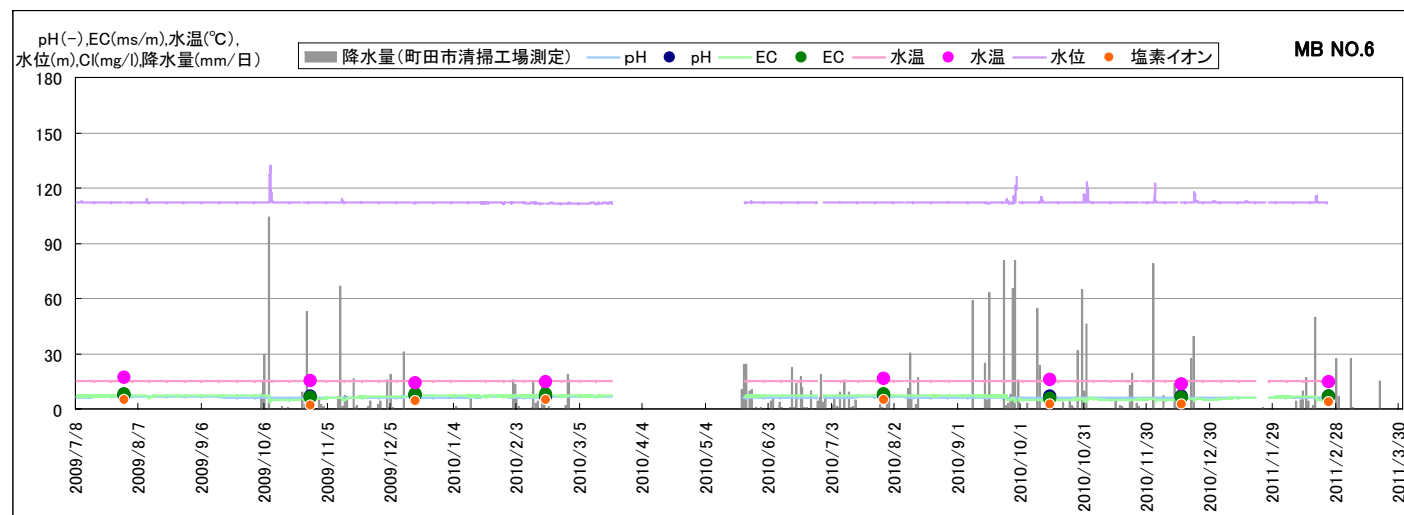
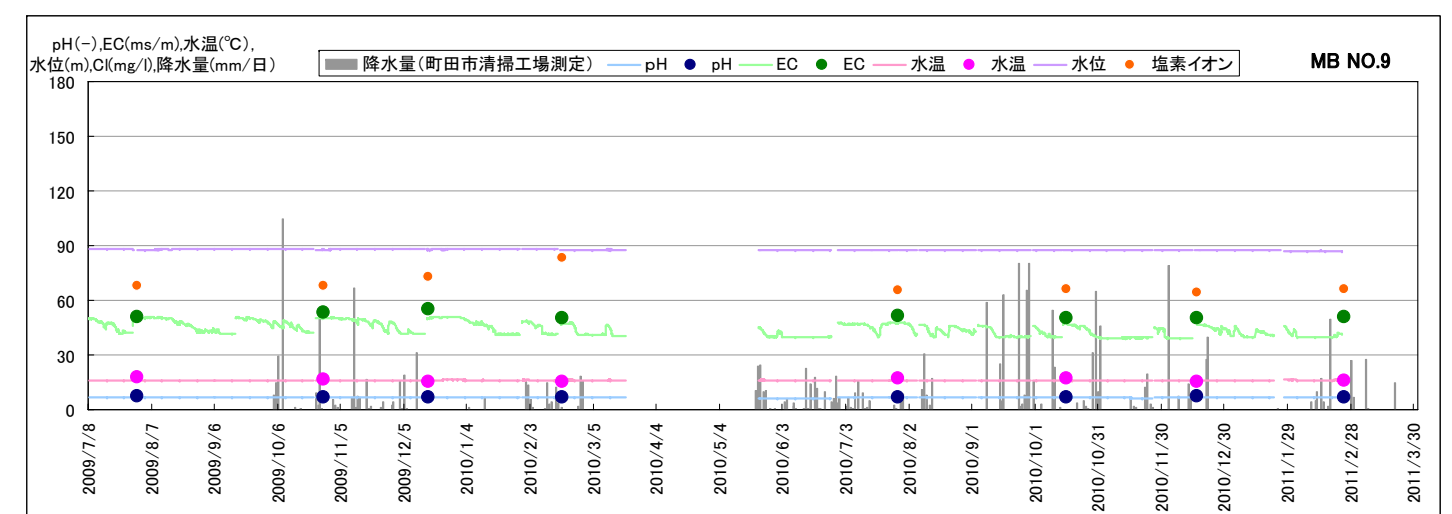
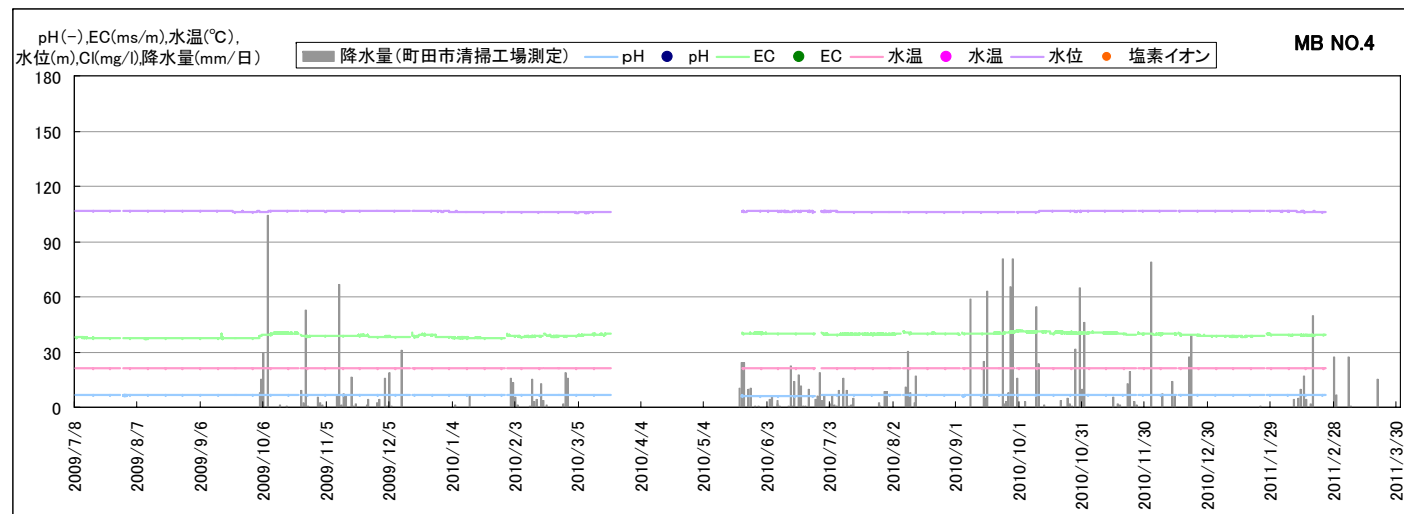
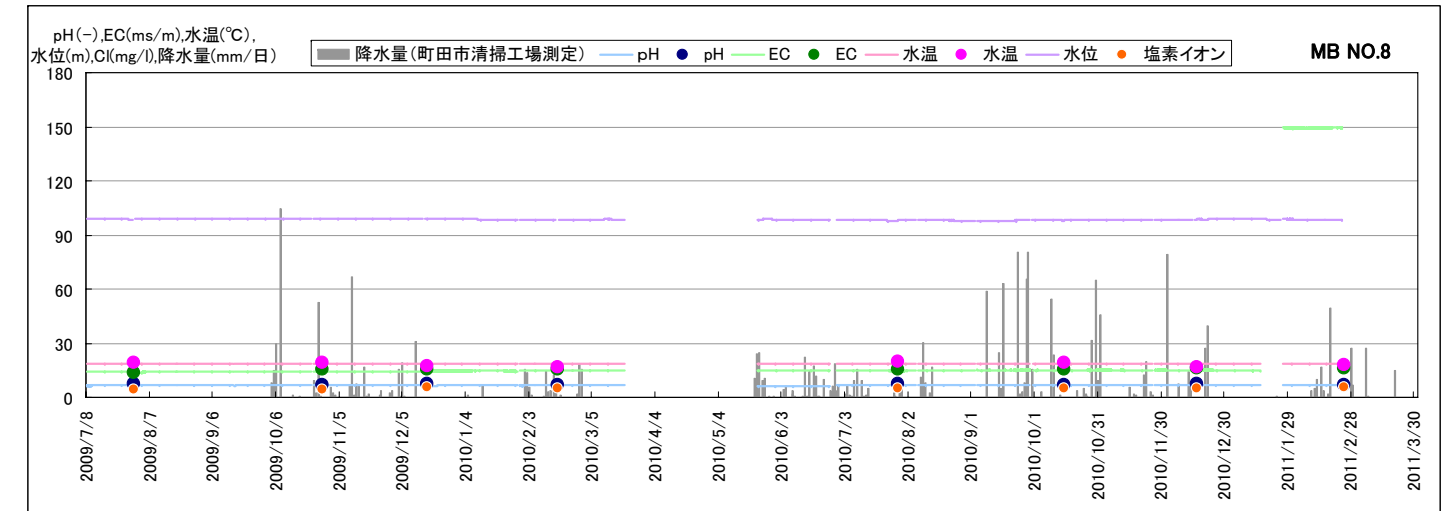
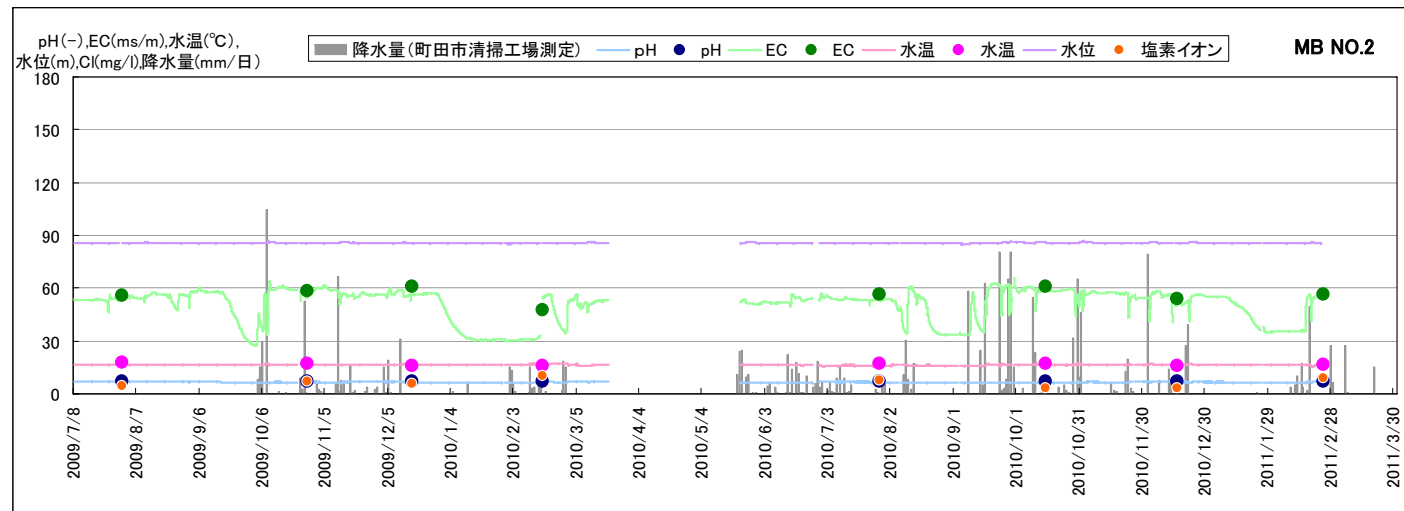


- MB No.2
- MB No.4
- MB No.6
- MB No.8
- MB No.9
- MB No.11



地下水連続測定結果とサンプリングデータ(2009/7/8~2010/3/19、2010/5/22~)

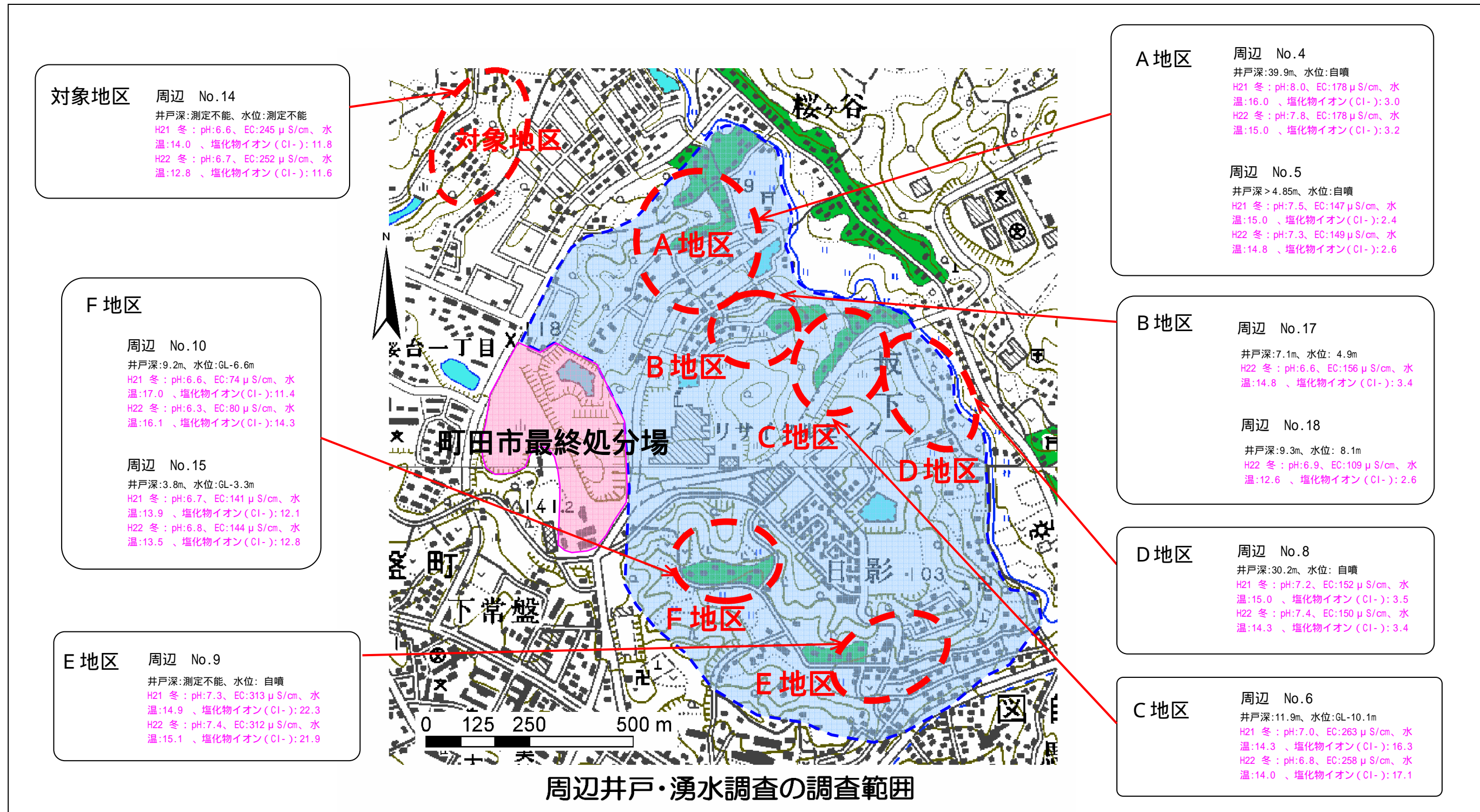
※●は分析結果(年4回)



3-2. バイオアッセイ試験結果

試料名称		採取日	バイオアッセイ判定
周辺井戸 (対照井戸)	No.13	H22.02.15	陰性
	No.14	H22.02.15	陰性
周辺地下水	MB No.2	H22.02.16	陰性
		H22.12.16	陰性
	MB No.4	H22.12.16	陰性
	MB No.6	H22.02.16	陰性
		H22.12.16	陰性
	MB No.7	H22.02.17	陰性
		H22.12.16	陰性
	MB No.8	H22.02.16	陰性
	MB No.9	H22.02.17	陰性
	MB No.11	H22.02.17	陰性
	MB No.12	H22.02.17	陰性
下流側モニタリング井戸	H22.02.17-H2 2.02.18	陰性	

3-3. 周辺井戸・湧水調査結果



4. 最終覆土工事に伴う周辺への影響調査

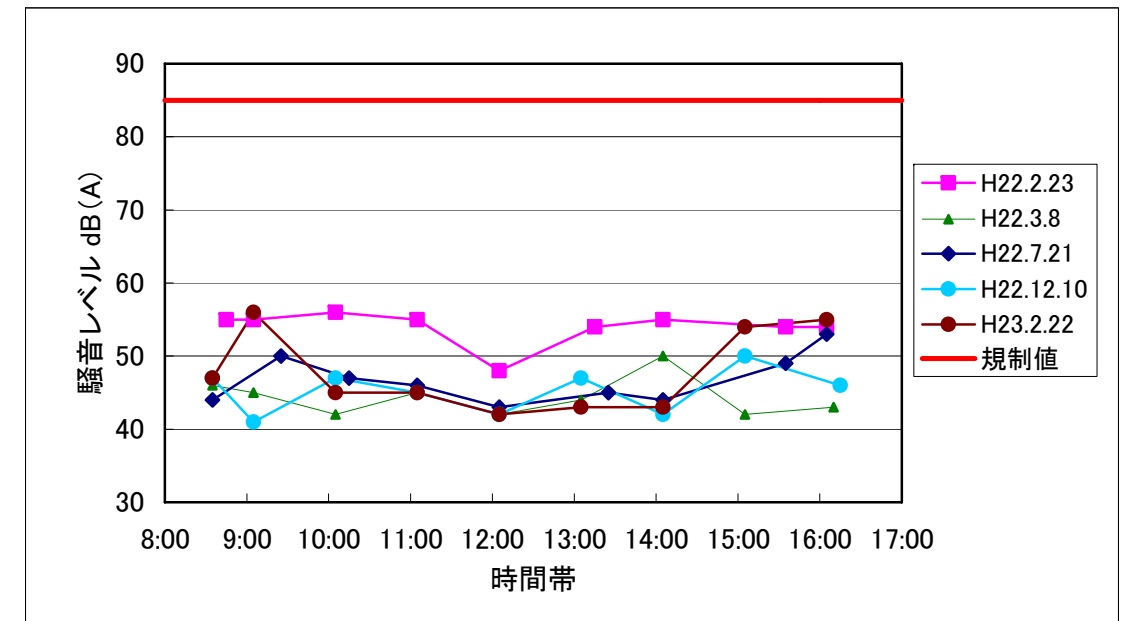
4-1. 土壌分析調査結果

① どの地点においても、受入基準より低い結果であった。

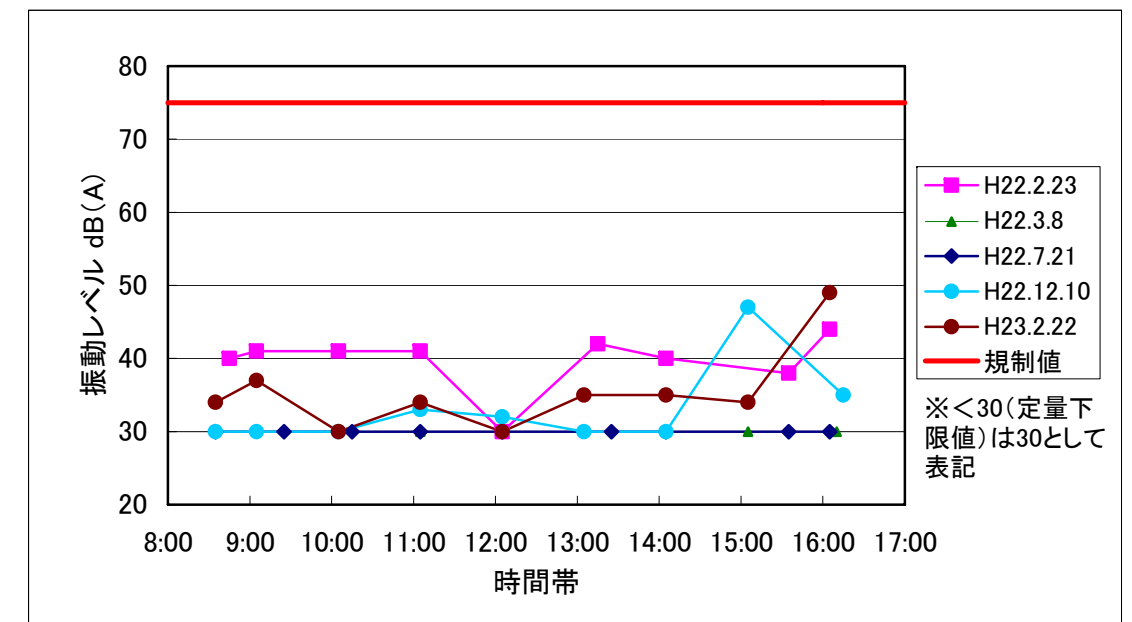
項目	検体名称 採取年月日 単位 時刻	S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	町田市最終覆土受入基準	
		H22.5.21 13:30 ~ 14:30	H22.6.25 11:30 ~ 12:30	H22.6.25 10:20 ~ 11:00	H22.12.17 9:50 ~ 11:00	H23.2.22 12:00 ~ 13:00	溶出量	含有量
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下	-
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004以下	-
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下	-
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04以下	-
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下	-
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下	-
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	1以下	-
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下	-
トリクロロエチレン	mg/L	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03以下	-
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下	-
カドミウム及びその化合物	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下	-
六価クロム化合物	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05以下	-
シアン化合物	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと	-
水銀及びその化合物	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005以下	-
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	-
セレン及びその化合物	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下	-
鉛及びその化合物	mS/m	<0.001	<0.001	0.005	<0.001	<0.001	0.01以下	-
砒素及びその化合物	mg/L	<0.001	<0.001	0.003	<0.001	<0.001	0.01以下	-
ふっ素及びその化合物	mg/L	0.100	<0.08	0.24	0.18	<0.08	0.8以下	-
ほう素及びその化合物	mg/L	<0.1	0.1	0.1	<0.1	<0.1	1.0以下	-
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003以下	-
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下	-
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下	-
ポリ塩化ビフェニル	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	-
有機りん化合物	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと	-
油膜	-	無	無	無	無	無	油膜がないこと	-
油臭	-	無	無	無	無	無	油臭がないこと	-
カドミウム及びその化合物	mg/kg	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	-	150以下
六価クロム及びその化合物	mg/kg	<10	<10	<10	<10	<10	-	250以下
シアン化合物	mg/kg	<5	<5	<5	<5	<5	-	50以下
水銀及びその化合物	mg/kg	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	-	15以下
セレン及びその化合物	mg/kg	1.0	<1.0	<1.0	<1.0	<1.0	-	150以下
鉛及びその化合物	mg/kg	<10	<10	<10	<10	<10	-	150以下
砒素及びその化合物	mg/kg	<10	<10	<10	<10	<10	-	150以下
ふっ素及びその化合物	mg/kg	<100	<100	<100	<100	<100	-	4000以下
ほう素及びその化合物	mg/kg	<50	<50	<50	<50	<50	-	4000以下
銅	mg/kg	7.9	11	11	12	3.7	-	125以下
ダイオキシン類	pg-TEQ/g	1.7	0.0033	0.095	0.058	0.0027	-	250以下

4-2. 騒音・振動調査結果

① どの地点においても、規制値より低い結果であった。



■「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準について」基準値85デシベル



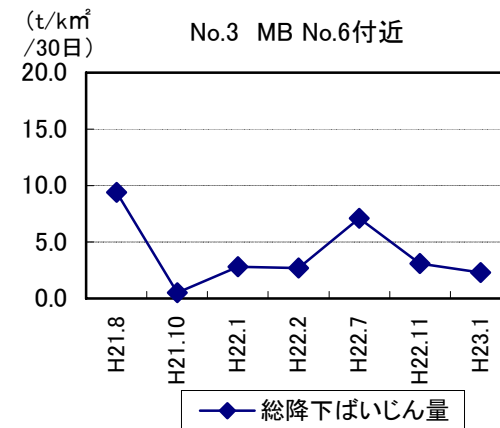
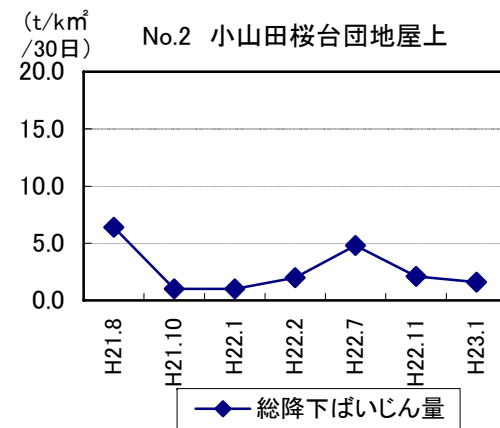
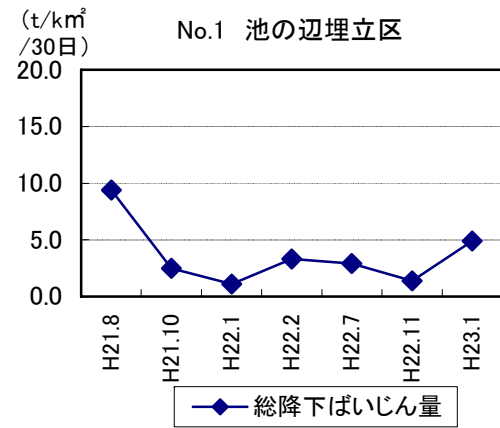
■「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準について」基準値75デシベル

4-3. 降下ばいじん調査結果

① どの地点においても、工事前（H21.8）より低い結果であった。

項目	検体名称 採取年月日 単位	1 池の辺埋立区							2 小山田桜台団地屋上							3 MB No.6付近							環境基準
		H23.1.25	H22.11.19	H22.7.21	H22.2.5	H22.1.8	H21.10.23	H21.8.20	H23.1.25	H22.11.19	H22.7.21	H22.2.5	H22.1.8	H21.10.23	H21.8.20	H23.1.25	H22.11.19	H22.7.21	H22.2.5	H22.1.8	H21.10.23	H21.8.20	
		t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日	t/km ² /30日		
総降下ばいじん量	t/km ² /30日	4.9	1.4	2.9	3.3	1.1	2.5	9.4	1.6	2.1	4.8	2.0	1.0	1.0	6.4	2.3	3.1	7.1	2.7	2.8	0.5	9.4	-

注) 1：環境基準は最終放流先である鶴見川（D類型）のものとした（昭和46年12月28日環境庁告示第59号）。

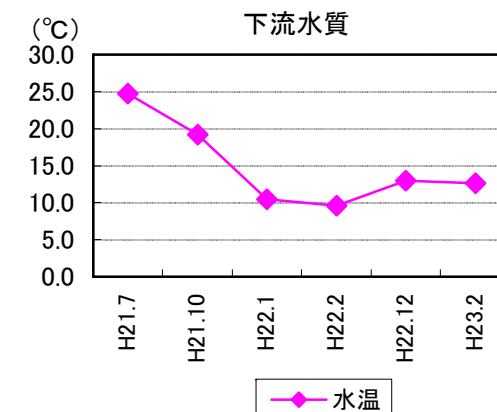
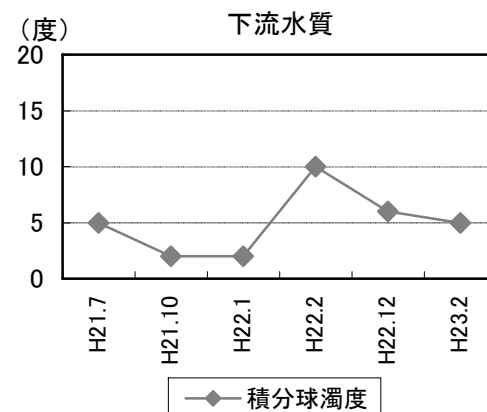
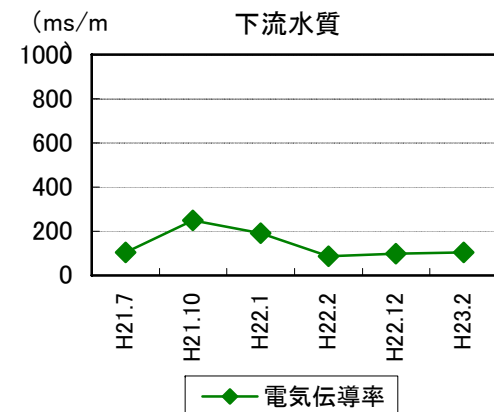
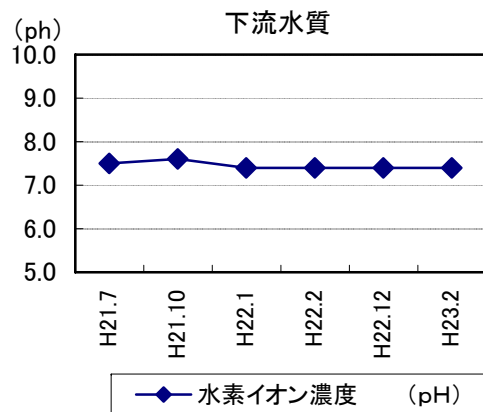


4-4. 下流水質調査結果

① 電気伝導率が若干高いが、安定していることから、施工による影響は確認できない。

項目	検体名称 単位	下流水質						環境基準	
		採取年月日	H23.2.24	H22.12.15	H22.2.17	H22.1.25	H21.10.22		H21.7.29
水素イオン濃度 (pH)	pH		7.4	7.4	7.4	7.4	7.6	7.5	6.0以上8.5以下
電気伝導率	mS/m		105	97	87	191	249	103	-
積分球濁度	度		5	6	10	2	2	5	60以下
水温			12.6	13.0	9.6	10.5	19.2	24.7	-

注) 1：放流基準値は、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(昭和51年3月14日総理府・厚生省令第1号)に示される基準値である。(基準が適用されるのは水処理施設で処理した後の放流水であるため、浸出水原水には適用外)



4-5. 最終覆土材料試験結果

- ① 締固め工事で最大乾燥密度の85%以上に締固めを行う。
 ② 透水試験結果より、透水係数は「 10^{-7} 」であり透水性が非常に低い結果となった。

資料番号	H22-A 新庁舎	H22-B サンワ
土粒子の密度 ρ_{Sg}/cm^3	2.684	2.672
自然含水比 w_n %	51	60.3

試験方法	A-c	A-c
最大乾燥密度 ρ_{dmax} g/cm	1.105	1.028
最適含水比 W_{opt} %	48.1	55.6
透水試験方法	変水位	変水位
透水係数 k cm/sec	2.60E-07	1.04E-07

		10^{-9}	10^{-8}	10^{-7}	10^{-6}	10^{-5}	10^{-4}	10^{-3}	10^{-2}	10^{-1}	10^0	10^1	10^2
透水性		実質上不透水		非常に低い	低い	中位		高い					
対応する土の種類	粘性土	微細砂、シルト 砂-シルト-粘土混合土				砂及びれき(礫)			清浄なれき(礫)				
透水係数を直接測定する方法	特殊な変水位透水試験	変水位透水試験			定水位透水試験			特殊な変水位試験					
透水係数を間接的に測定する方法	圧密試験結果から計算	なし			清浄な砂とれき(礫)は粒度と間げき(隙)比から計算								

出典：「土質試験の方法と解説(土質工学会)」

4-6. 雨水調整池調査結果

①水質分析結果

① 調整池流入口No. 1は塩素イオン、電気伝導率がやや高い傾向がある。

項目	検体名称 単位 採取年月日	調整池流入口 No.1		調整池流入口 No.2		調整池流入口 No.3		環境基準
		H23.2.21	H22.9.29	H23.2.18	H22.11.22	H23.2.18	H22.11.22	
水素イオン濃度 (pH)	pH	7.3	7.0	7.9	7.4	7.0	6.8	6.0以上8.5以下
塩素イオン	mg/L	110	319	3.5	5.0	34.3	16.8	-
電気伝導率	mS/m	62.6	131	19.6	9.2	29.8	16.3	-
水温		17.2	18.4	9.5	14.4	11.3	14.0	-

②底質分析結果

① 鉛の含有量がやや高い傾向がある。

② ダイオキシンの含有量がやや高い傾向がある。

項目	検体名称 単位 採取年月日	調整池流入口 No.1		調整池流入口 No.2		調整池流入口 No.3		環境基準
		H23.2.21	H22.9.29	H23.2.18	H22.11.22	H23.2.18	H22.11.22	
鉛	mg/kg	130	25.0	130	130	100	67.0	-
ダイオキシン類	pg-TEQ/g	51.0	18.0	63.0	91.0	32.0	55.0	-



③水量測定結果

(1) 流量測定期間

第1回：2010年11月9日～11月24日（16日間）

第2回：2011年2月17日～3月3日（15日間）

(2) 流量計設置状況：調査ポイント①②③④



調査ポイント

調査ポイント



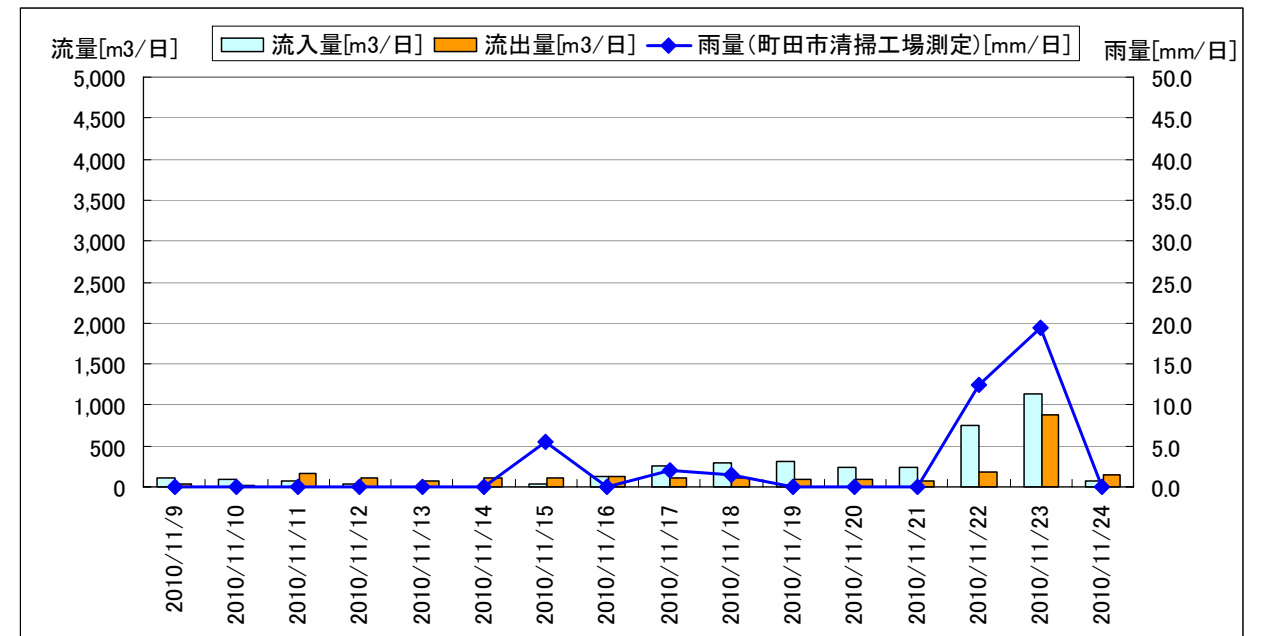
センサー部

図：流量計(超音波ドップラ式)(例)

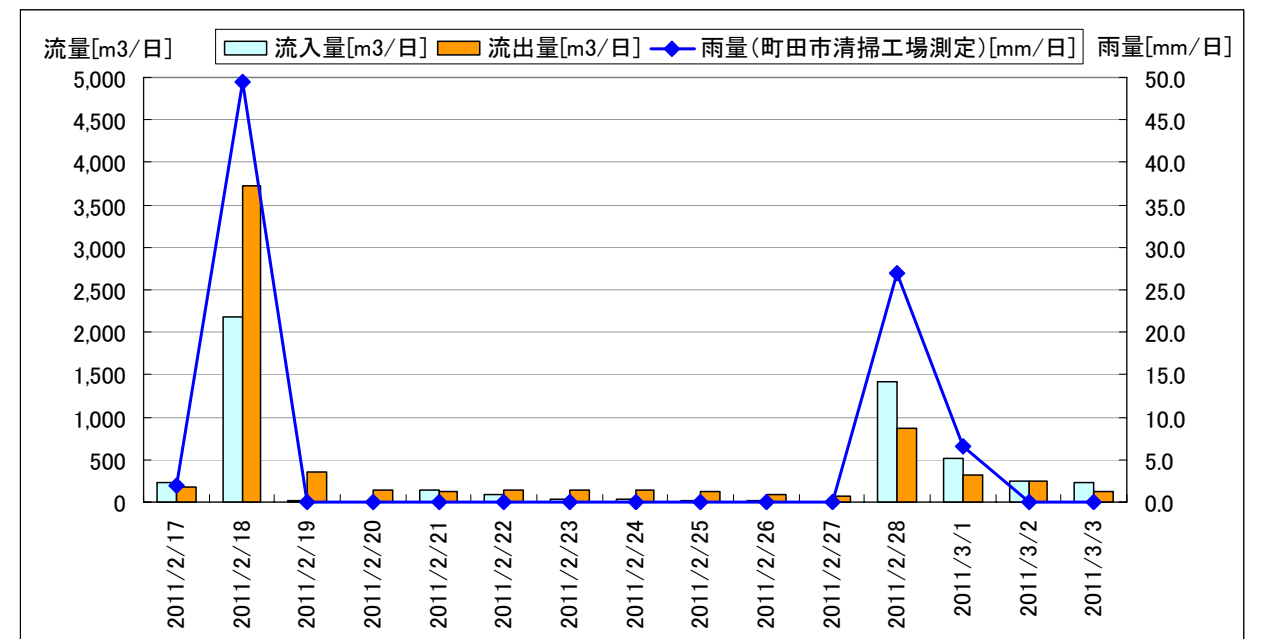
(出典：ペンタフ株式会社 HP)

(3) 測定結果

- ① 雨量の少ない時には、流入量（調査ポイント①②③の合計流量）と流出量（調査ポイント④の流量）はやや差は有るものの、ほぼ同等である。
- ② 2011年2月18日は流入量に比べて流出量が多いが、これは雨量が多く、流入量測定箇所以外（階段工等）からの流入が考えられる。



図：第1回測定結果（2010年11月9日～11月24日）



図：第2回測定結果（2011年2月17日～3月3日）